

この 22 年間私はずっとどこからきたのか、どこへ帰るのか、私とは何なのかを探してきました。

私がこうであると確信できるまでになるには、

私をこうたらしめたモノたちを認識し、

それらを私が受け止める必要があると考えました。

たとえ、私が納得できなくても、そのモノがそこにあったこと、

そして私がそれを経験し、見てきたことは認めるべきであり、

私はそこから自分自身で新しい納得へと

進んでいくことができるのではないのでしょうか。

"彼女たち" は私を強くさせ、弱くさせた、

私ではない私の一部です。

彼女たちであるということを認識し、理解したいと思うことは、

私であると認識し、理解することでもあると考えます。

そうやって、私は彼女たちを、私自身を、見つめることにしました。

きっとこの葛藤の終わりがすぐ来ることはありません。

しかし、私はこの葛藤と向き合い、彼女たちを見つめながら

私であるという瞬間を探し続けるのです。